

ロジックモデル

具体的取組(個別施策)	指標(実績)
【入退院支援】	
多職種連携研修の実施	研修会参加回数
入退院調整マニュアルの運用	事例検討会への参加回数
医師・薬剤師・看護師・介護従事者向け、認知症対応力向上研修の受講促進	受講者数
医療機関・介護施設の有資格者やケアマネ・包括職員等に応じた認知症サポーター養成講座の実施	受講箇所数、キャラバン登録人数
医療従事者等が介護施設やグループホームを見学・意見交換	見学・意見交換の回数
認知症サポーター医、認知症地域支援推進員の周知・連携	周知度
認知症に関する相談窓口の充実・認知症ケアパス改訂、周知・チームオレンジ(認知症支え隊)活動の周知	認知症支え隊支援人数

【日常の療養支援】

施設の認知症高齢者の受入れ状況の把握	—
定期的な当事者・家族のミーティングや対話の実施	居場所の箇所数
認知症高齢者及び介護者家族等のニーズを把握	—
多職種連携研修の実施	研修会参加回数
想いを伝える私ノートの活用及びACP(人生会議)の定期的な開催促進	開催回数
在宅サービスを提供する事業所の整備	箇所数
初期集中支援チームの活動を有効に活かすための啓発活動	活動回数

かかりつけ医の対応力向上研修の受講促進	受講者数
歯科医の認知症患者に対する対応状況の把握。	—
医療・介護事業者に認知症時期別・症状別対応マニュアルを周知し活用促進	研修参加人数・周知度
医療介護従事者向けに意思決定支援に関する研修会を実施	研修会参加者数
多職種連携研修の実施	研修会参加回数
医療・介護従事者向け研修会の実施(BPSD等への対応)	研修会参加者数

認知症に関する相談機関(認知症地域支援推進員専用ダイヤル・若年性認知症サポートセンター)についての周知徹底	周知度
認知症に関心を持つ地域住民を増やすため、認知症サポーター養成講座、スキルアップ研修及び認知症支え隊の養成を展開	研修会参加者数
医療・介護職向けに、希望を叶えるヘルプカードの活用策の周知	使用人数

【急変時の対応】

多職種連携研修の実施	研修会参加回数
------------	---------

【看取り】

多職種連携研修の実施	事例検討会への参加回数
人生会議の開催	開催回数

番号	令和9年の状態(初期アウトカム)	指標
体制整備		
	BPSD等認知症の有症状が強くても、診療科の調整がスムーズに図られ、入院ができています。	
多職種・多機関連携		
	入退院時において、ケアマネ等と病院担当者が、認知症患者の情報(症状や特性)をタイムリーに共有し、活用できている。	
人材育成・スキルアップ		
	病院・施設内において認知症患者の対応(BPSD等)に熟知したスタッフが増えている。	
	認知症状を有する方の退院に向け、医療・介護関係者等が当事者の望む暮らしをサポートできる体制が整えられるよう、意思決定支援が重んじられている。	
普及啓発		
	認知症当事者及び家族等介護者への情報が行き届いている。	

体制整備

	医療ニーズの高い認知症の人を受け入れる介護事業所が増えている。	
	当事者・家族が相談できる場や認知症の取組について意見できる場が増えている。	
	認知症の状態像や医療ニーズに応じた社会資源がある。	
	急変時のことや胃ろう創設などの状況を想定し、当事者及び家族の意向を定期的に確認する医療介護従事者が増えている。	
	多様なニーズに対応できる在宅サービスが充実している。	

多職種・多機関連携

	関係機関、多職種が連携し、疾病の予防・早期発見・重度化防止等、早期支援体制が強化されている。	
--	--	--

人材育成・スキルアップ

	認知症当事者及び家族への初期対応ができる医師が身近にいる。	
	認知症患者に対応できる歯科医師が増えている。	
	認知症の初期・中期・終末期に応じたケア・対応方法を理解し、詳しい状況を提供できる医療・介護事業者が生活圏域に存在する。	
	認知症当事者が自ら意思決定できるよう支援力向上に努めている医療・介護従事者がいる。	
	日常生活自立支援事業や成年後見制度など、認知症当事者が必要な状況に応じてサービス利用ができています。	
	病院・介護施設等において認知症患者の対応(BPSD等)に熟知したスタッフが増えている。	

普及啓発

	当事者や家族等が気軽に認知症に関する相談ができています。	
	近隣住民が認知症を理解し、僅かな変化にも関心を持ち声をかけられる、又は地域包括支援センターへ相談することができ、支援に繋がる事ができている。	
	希望を叶えるヘルプカードを活用する人が増えている	

人材育成・スキルアップ

	中等度の認知症の当事者であっても、表情・態度・行動からサインを読み取り、急変を見逃さないスキルを身につけた医療・介護スタッフが増えている。	
--	---	--

多職種・多機関連携

	不安や混乱する頻度が減少し、望む場所で過ごせる期間が延びている。	
	医療・介護従事者が本人が望む医療・ケアについて共有することができる。	

番号	令和12年の状態(中間アウトカム)	指標
1	認知症の人が安心して療養することができる環境が整っている。	

2	認知症の人が住み慣れた地域で、疾患、介護度に応じた多職種協働による医療・ケアを受けることができる	
---	--	--

--	--	--

--	--	--

--	--	--

--	--	--

--	--	--

--	--	--

--	--	--

--	--	--

--	--	--

--	--	--

3	急変時に認知症の人が望む医療・ケアを受けることができる	
---	-----------------------------	--

--	--	--

4	認知症の人が住み慣れた自宅や介護施設など本人が望む場所で看取りの医療・ケアを受けることができる	
---	---	--

番号	最終的に達成したい状況(2040年)(最終アウトカム)	指標
	本人が望む場所での生活が可能であり、専門職、担い手、サービスの受け手、誰もが暮らしやすくなっている	